

志理太宜神社

祭神 志理太宜神

今按此神も三島神の後佐伎多麻比咩命の生玉へる八王子の内なること三宅記に五をばシタイと云るにて明かなり志理太宜の理を省き太宜を音便にタイと稱たるなり

祭日

社格 (無格社)

所在 (伊豆國三宅島神着村字推取山) 三宅島神着村

今按式社攷證に三宅記に五をばシタイと有神と聞ゆれば三宅島鎮座なること決しと思ひて探るに神着村東方三十許町しいとりと云處にしいとり明神と云有り古く志太良とも稱たる由祭文神樂歌等に見えれば此志理太宜命なるべく聞えたりされど今は兼宮神保取神と合祀で一棟三扉の小祠となり上古の其か非ぬかとたどらるゝ計り衰頽に及びたる世の變遷は爲便無き事になむ而るゝ計り衰頽理太宜神社村白田祀「素盞鳴尊」後八幡を配す貞和二年上梁文に白田來濱神社は新羅擁護神也云々志理太宜白田來通音也云々神名帳攷證に志理太は下田也と記し竹村茂雄は下流若宮なるべしと云て各地名の近きより云出たるなれと從ひ難しと云るによりて縣の注進狀にも神着島と定めたるに從ふ

南子神社 稱南子宮

祭神 南子命

今按この神は三宅記にかの八柱の御子神を記して一人をばナゴ云々かの王子等生給ふ處は島の丑寅の方カマツケと云處也ナ、ハシラと云所にて育たまひ所々宮造有て王子王子を宮々に置玉へりとする是神にて三島大神の后神にます佐伎多麻比咩命の生玉へる御子神なり

祭日 七月二十七日十一月中酉日

社格

所在 (伊豆國三宅島伊谷村社后神社境内) 三宅島神着村南子

伊波氏別命神社

稱諏訪明神 (明細帳に諏訪明神祭神同所)

祭神 伊波氏別命

今按この神號は下に引る攷證に云る如く數十丈圍立たる如き巖石上に鎮坐すを以て稱へしものなるべきを豆州志に田方郡梅名村右内神社を伊波豆別命也と云ひ慶長九年の棟札に天石戸別又名櫛石窓亦神石窓此御門之神也今號右内明神と云ひて一神の如く云るは誤なり故今とらす

祭日

社格 村社

所在 岩殿村

今按式社攷證に岩殿村諏訪明神なるべし今實地を檢見するに數十丈圍立たる巖石上に鎮坐するは伊波豆別命の神號

穗都佐和氣命神社

祭神 穗都佐和氣命

祭日

社格

所在

今按式社攷證に州崎村三島明神ならんか其此神號は波利島に坐す阿豆佐和氣命の御稱と同一火より起り穗津は火都にて彼奔火の燃出るが如き地に鎮座なるより稱へ奉りし神名ならん此村邊の形勝は既に豆志にも云し如く一山岡の南方海中に突出たる所にして岩石磊落たる岬崎なるが此地より白濱村に至る間山岳より海濱にある處の石巖凡て焼出たるものにて彼神造とある海中諸島の形勢に異なる事無きを以て稱へ奉りしと思ふ、を以て島なるは此海濱に人家の有を後に村中に遷し祀りたることと思はるゝが神階帳に所載をつさわげの明神此神なるに此社に近き海濱の稱をつせと云はをつさの轉訛と聞ゆるをも思ふべし又同郡奈良木村屬里堀川の稱穗津佐和氣の約には

伊豆國 賀茂郡

大津往命神社

祭神

祭日

社格

所在

今按式社攷證に賀茂郡本郷村に波布比賣明神有て豆志に波布比賣命神社土總鎮守也貞享元年の札に云稻生澤郷川津庄本郷村波富明神と此式内にして大島波富池上に祀る波富天后と同神也云々とあるはもとよりなる波布比賣神と訛り來れるにて決めて大津往命なるべく聞えたりさるは此村に續きて所謂下田湊あるが古昔は此本郷村境迄入

に思合され神階帳にいわでわけのみこと有が古く若宮と稱へたるに符合ひ村名の岩殿も本伊波豆の稱に當たりと聞ゆるを殿をどのと訓て遂に今の如く訛たるを以て證すべし然るを豆志に田方郡梅名村右内神社を當社と定めたるは非説也と云る實にあたり

あらじかと聞ゆるも所由あるを思ふべし又大瀬村に王子明神あり豆志云王子明神大瀬村本瀬にあり古祠也云々伊豆峯記に本瀬濱の三島明神大瀬村氏神也と大瀬長鶴一村の時總鎮守也云々とあり此大瀬本瀬の號の穗都佐をつさに通ひて聞ゆるは緣由ある稱ならんも知べからず又一説に入間村三島明神あり此社なるべしと云ひて諸説まちまちなる故に縣の註進狀にも未定の由を記せりかくて思ふに神號の穗津は火都にて火を出して島を造れる由に云る説は信がたし入間村なるも古き棟札はあれど證なし唯大瀬村の本瀬にある王子明神を穗津佐和氣命神社なるべき猶よく考べし